

蛇のいるハス田の思い出

この文章を書いたときのモデルのハス田は、だいぶ昔に失われてしまった。だが、似た風景は西条盆地のどこかにまだ残っていると思い、花サイクルの一節に留めることにした。

☆

西条盆地は、中央の鏡山を囲んで平坦な地形が広がる。今日の「花サイクル」は、一番低いところにある田んぼに行く。稲田の代わりに食用のハス田が点々と続く。

そばを流れる黒瀬川の堤防が車の通り抜けに使われていないので、のんびりサイクルできる。ポツポツ咲くハスの花を写真に納めねばと思う。観賞用のハスではないから、少女が唇だけ紅を差した感じ。

小さな土手を降りて、排水溝をまたいで写真撮影。さて次はと、畦道を進む。と、1メートルをゆうに超える褐色の蛇（たぶんシマヘビ）が、私を無視して目前を横断する。いかん、いかんと、土手を上り、遠回り。だが今度は黒ぼいやつ（おそらく黒化タイプのシマヘビ）が、私と並行して溝の中を走る。ゾォー。

別の場所ではキューと鋭い声が揚がり、ハスの葉が揺れる。え？、蛇は鳴いたっけ？何回かするうちに、声の正体が蛙であることが分かる。それにしても蛙のこんな声を聞いた覚えがない。



蛇が多いのは、おいしい蛙を狙っているからだろう。ハス陰で自然界の暗闘が繰り広げられる。「お釈迦様」は先刻ご存知に違いない。

